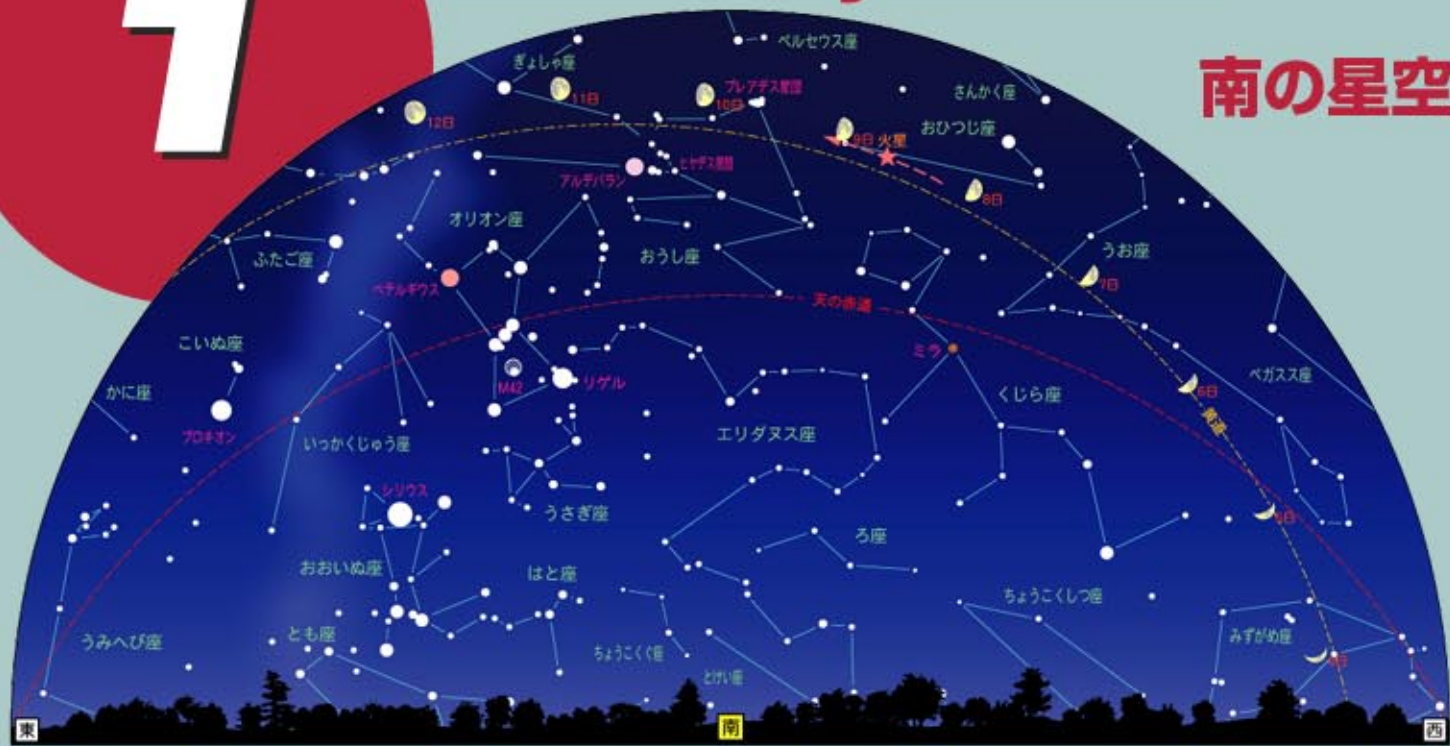


1

January

南の星空



1月の天文現象カレンダー

北の星空



1月中旬の東京の20時ごろ
大阪では20時20分ごろ、
福岡では20時40分ごろの星空です。
1月初めなら東京で21時ごろ
1月末なら東京で19時ごろ
の星空になります。

1月の天文現象カレンダー

1 日 1.0	元日(初日の出:札幌07時06分、東京06時51分、大阪07時05分、福岡07時23分) 00時54分:水星が冥王星の南07° 35.5' を通る 19時00分:月が金星の南07° 18.0' を通る	8 日 8.0	おとめ座Rが極大(6.1~12.1等) オリオン座Jが極大(4.8~13.0等) カシオペア座Vが極大(6.9~13.4等)
2 月 2.0	08時:月の距離が最近(36万1758km、視直径33' 02") 21時05分:月が海王星の南04° 04.2' を通る	9 月 9.0	成人の日 04時50分:月が火星の北01° 20.5' を通る
3 火 3.0		10 火 10.0	21時44分:カシオペア座RZが極小
4 水 4.0	ヘルクレス座RUが極大(6.8~14.3等) 09時21分:月が天王星の南02° 00.6' を通る 03時: しぶんぎ座流星群が極大 (出現期間1月1~7日) 22時19分:カシオペア座RZが極小	11 水 11.0	13時17分:小惑星(3361)Orpheusが最接近(0.1597AU)
5 木 5.0	くじら座Rが極大(7.2~14等) 00時:地球が近日点通過(0.9833270天文単位、1億4709万9107km、太陽視直径32' 31.8") 20時47分:小寒(太陽黄経285°)	12 木 12.0	16時09分:水星と小惑星ケレスが最接近(01' 18.6") 22時14分:月が最北(赤緯+28° 24.6")
6 金 6.0	02時08分:月が赤道通過、北半球へ 08時26分: 小惑星ベスタが衝 (光度6.2等)	13 金 13.0	19時28分: 金星が内合 (太陽の北05° 28.4'、光度-4.1等、視直径62.6") 22時05分:月と小惑星ベスタが最接近(04' 19.4") 22時50分:太陽と金星が最接近(05° 28.1")
7 土 7.0	03時56分:●上弦	14 土 14.0	18時48分:●満月
		15 日 15.0	22時11分:月が土星の北03° 47.4' を通る

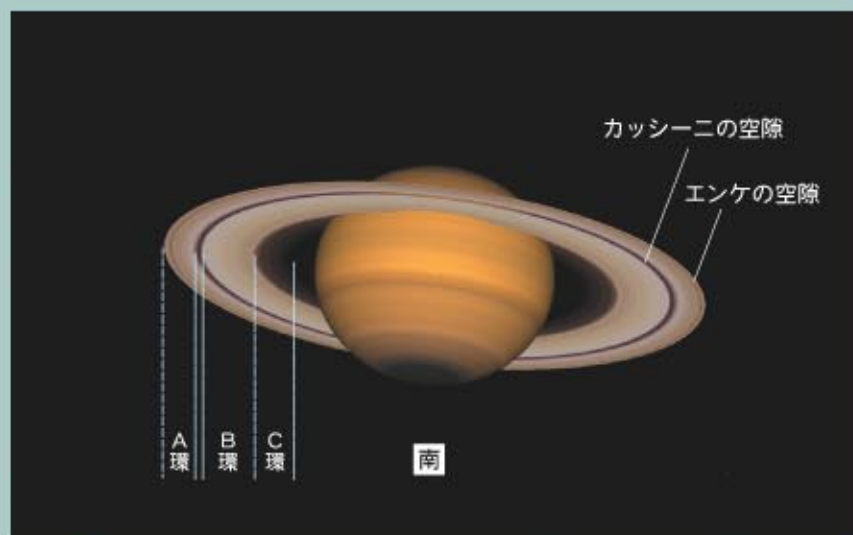
16 月 16.0	21時10分:カシオペア座RZが極小	24 火 24.0	05時20分:月が木星の南04° 42.0' を通る
17 火 17.0	11時23分:水星が金星の南07° 52.7' を通る 15時31分:冬の土用(太陽黄経297°)	25 水 25.0	
18 水 18.0	04時:月の距離が最遠(40万5888km、視直径29' 26")	26 木 26.0	12時02分:水星が外合 (太陽の北02° 08.1'、光度-1.3等、視直径0.48")
19 木 19.0		27 金 27.0	りょうけん座Rが極大(6.5~12.9等) 01時03分:月が冥王星の南12° 28.5' を通る 09時14分:月が最南(赤緯-28° 29.6")
20 金 20.0	おとめ座Sが極大(6.3~13.2等) 00時17分: おとめ座β星(3.8等)の星食 (東京:明線からの潜入) 10時05分:月が赤道通過、南半球へ 14時15分:大寒(太陽黄経300°) 21時54分:アルゴルが極小	28 土 28.0	いて座RTが極大(6.0~14.1等) 08時47分:月が金星の南12° 12.0' を通る 11時48分: 土星が衝 (光度-0.2等、視直径20.4"、環直径46.1"、環径14.9") 15時02分:月と小惑星ケレスが最接近(01' 51.2") 20時02分:カシオペア座RZが極小
21 土 21.0	さんかく座Rが極大(5.4~12.6等)	29 日 29.0	23時15分:●新月
22 日 22.0	わし座Rが極大(5.5~12.0等) 07時46分: おとめ座のスピカ(1.2等)の星食 (大阪:明線からの潜入) 20時36分:カシオペア座RZが極小	30 月 0.5	01時32分:月が水星の南02° 10.6' を通る 09時09分:月が海王星の南03° 55.6' を通る 17時:月の距離が最近(35万7778km、視直径33' 24")
23 月 23.0	00時14分:●下弦 18時43分:アルゴルが極小	31 火 1.5	こと座Wが極大(7.3~13.0等) 20時57分:月が天王星の南01° 43.8' を通る

28日 環の大きく開いた土星が、かに座で衝 プレセペ星団M44と並ぶ姿も双眼鏡で印象的

2005年後半からかに座に移った土星は、ヘルクレスにふみつぶされてしまったお化けがにの甲羅にある散開星団M44プレセペと並んで見え、2006年1月28日に太陽の真反対側にやってきて衝となる。これまでは冬の星座の中で見えていた土星もこれからは春の星座の中で輝く惑星となるわけだ。冬の悪気流からも開放され、大きく開いた環の詳細もこれまでよりは観測しやすくなっていくことだろう。この土星のまわりを周回中の探査機カッシーニからもたらされる情報などとともに、ここ当分、見ごろとなっている土星の姿に注目してみたい。



▲プレセペ星団と惑星 星つぶの明るい散開星団と土星が並ぶようすが双眼鏡で印象的に眺められる(写真は木星とプレセペ星団の接近)。両者の最接近は1月下旬から2月上旬。



4日 早朝にピークとなる四分儀座流星群は 月明りもなく好条件、流星数も多いかも……

毎年恒例の天文現象の最初のものとして紹介されるのが「りゅう座ι(イオタ)流星群」だ。といっても最近では、「しぶんぎ座流星群」の方が知られるようになってきている。これは放射点の近くにかつて壁面四分儀座という星座があって、その名をとったよび名というわけだ。じつは、昔の流星観測者たちには「しぶんぎ座流星群」の古名で知られていたもので、それが現存しない星座名ということで、「りゅう座ι流星群」と改められた。それがまた最近になって旧来の「しぶんぎ座流星群」の名で復活することになったものだ。

さて、それはともかく、今年のこの流星群は、久しぶりにあんがい好条件なので目が離せそうもない。第一は月が全くないということ、第二はピークが4日の未明、午前3時頃と予想されているという点だ。夜明け前の北東天に昇ってくる放射点高度もますますなので、早起きして注目しよう。

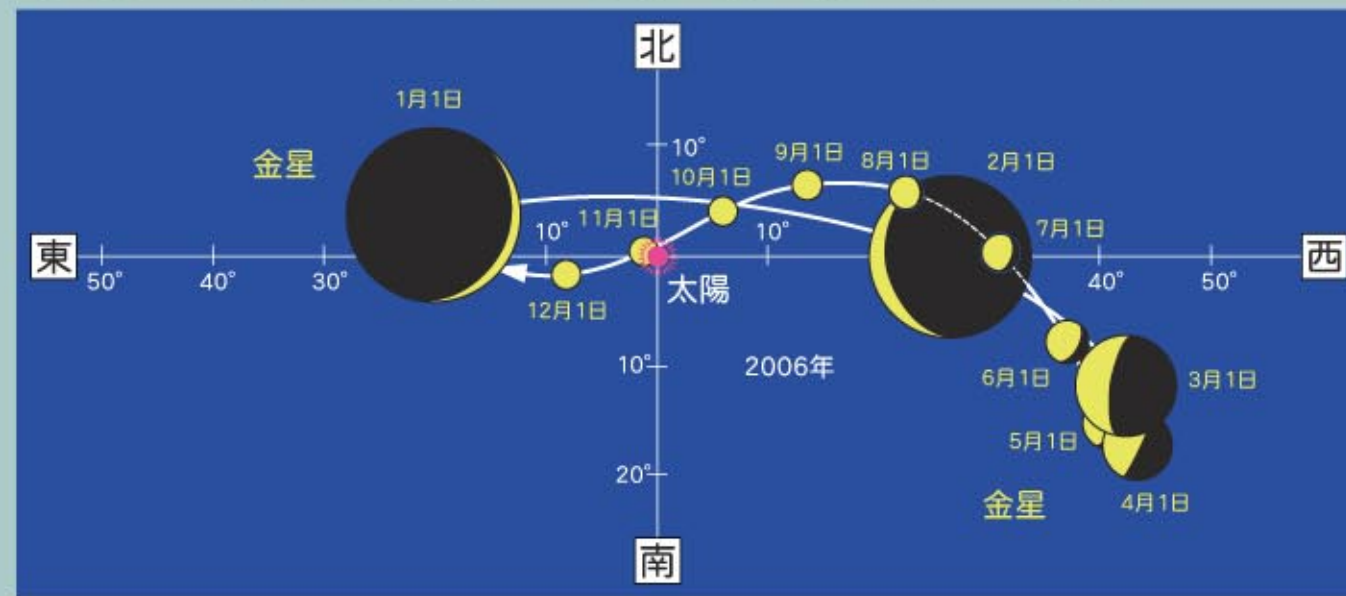
▶しぶんぎ座流星群の放射点 夜半には放射点が早く顔を出してくるので、4日早朝はかなり長時間にわたって観測しなければならないことになる。



13日 宵の明星の金星が地球と太陽の間に入りこんで 内合、以後は夜明け前の東天で明けの明星となる

2005年12月9日に「宵の明星」として最大光度になった金星は、2006年1月13日に地球と太陽の間に入り込んできて内合となり、以後は夜明け前の東天に移って「明けの明星」として姿を見せる。これからの金星の動きは、2月18日に-4.6等の最大光度となり、3月25日に西方最大離角となる。1月の夜

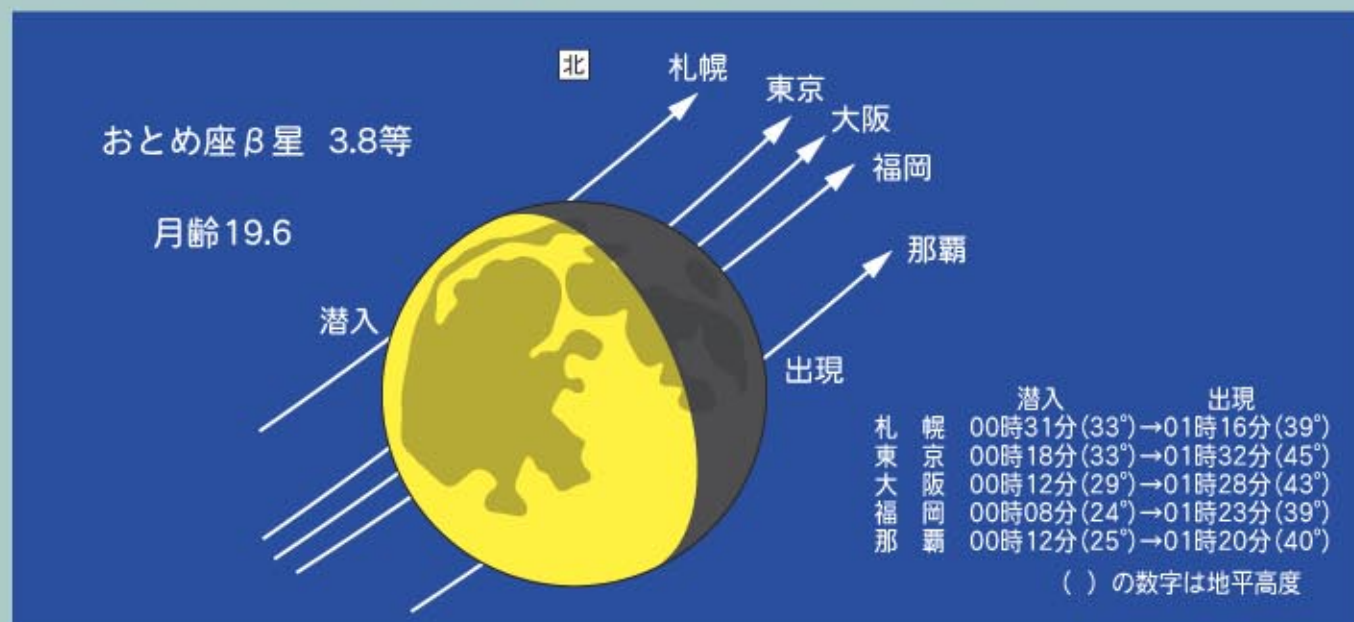
明け前の東天での金星の高度は、あまり高くならないので、人目にはつきにくいかもしれない。その金星が太陽の向こう側にまわって外合になるのは10月26日のことで、それ以後は夕方西方の西天にまわって「宵の明星」となり、年末ころには夕方西方低く、夕焼け空の中できらめく姿が見られるようになる。



20日 おとめ座の頭に輝く3.8等のβ星が 未明に月に隠され、出るところが全国で見られる

1月も下旬のころになると、春の星座としておなじみの、おとめ座が夜半前には東の空に姿を見せるようになってくる。その、おとめ座の頭部に輝く3.8等のβ（ベータ）星が、月齢19.6の大きな月に隠され、出てくるところが全国で見られる。

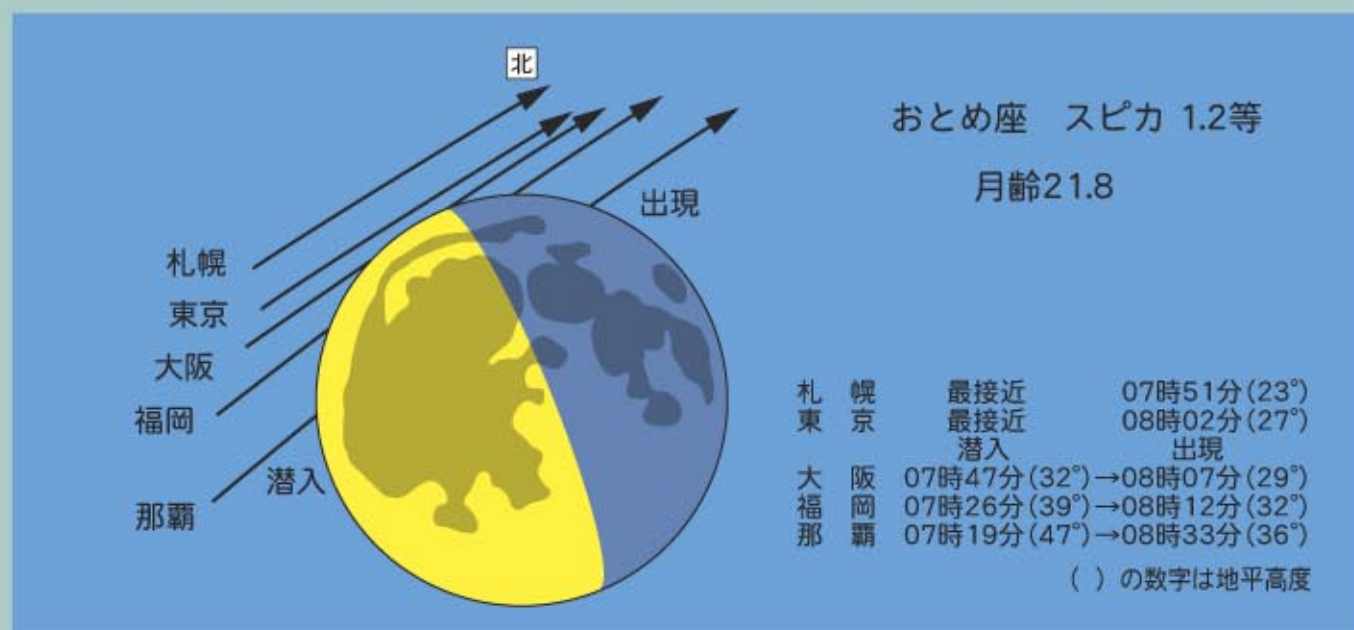
月は明るいものの、隠されるβ星もじゅうぶんに明るいので、このようすは双眼鏡でも見ることができよう。ただし、月齢19.7と、満月と下弦の間の大き目の月による星食なので、いくぶんわかりにくいかもしれない。



22日 日の出後の青空の中で、おとめ座の1等星スピカが 月に隠されるところが西日本方面で見られる

1月22日の日の出は東京の場合で、午前6時48分と冬の季節なので当然遅くなっているが、その日の日の出からおよそ1時間後のころ、おとめ座の1等星スピカが下弦前の月の北をかすめて通りすぎる。じつは、中部地方より西ではこの時、スピカ

が月に隠され出てくるところが見られるので、青空の中での星食となるものの目は離せない。好都合なことにはこの日は日曜日だし、スピカも1.2等と明るいので望遠鏡なら見るのはむしろしくはないだろう。



6日 四大小惑星のひとつのベスタが衝となり 6等級で、ふたご座にいるのが双眼鏡でわかる

四大小惑星のうちの一つベスタは、一番明るくなる小惑星としておなじみのものだ。2000年7月16日の皆既月食のときには5.4等もの明るさになり、赤銅色の月と並んでいるところが皆既中に肉眼でも認められたほどだった。さすがにそれほど明るくなるチャンスはめったに恵まれないが、この1月6日に衝となり、6.2等星となって、ふたご座の中ほどで見やすくなっている。双眼鏡ならすぐその姿がとらえられるが、夜半にはほとんど頭上のあたりまでやってくるので、鋭眼の人は肉眼でも見えるものかどうかチャレンジしてみるとよいだろう。

冬の透明度はかなり良いし、頭上のあたりなので条件としては上々といえるものだ。しかし、限界に近いものなので、できればスケッチなどとおいて、移動したかどうかを確認するようにしたい。双眼鏡を並用するのも確認には役立つだろう。



初旬 オリオン座で昨年12月11日に衝となったばかりの 小惑星ジュノが、まだ明るめで双眼鏡なら見える

四大小惑星のひとつジュノは、ふだんはあまり明るくならないので、ケレスやベスタのように気楽にお目にかかれるというわけにもいかないものだ。とはいえ、2005年12月11日に衝となったばかりなので、まだ見つけやすい状態が続いている。1月1日に7.9等だったものが、1月26日には8.4等になってしまうので、その姿を見るにはもちろん双眼鏡が必要となる。夜空の明るい都会地では双眼鏡ではむしろ難しく、望遠鏡が必要になるかもしれない。

位置はオリオン座の三ツ星の西よりとわかりやすいので、自動導入の望遠鏡でなくてもその姿は容易につかまえられることだろう。小惑星は土星や木星といったふつうの惑星と違って、高倍率にしたからといって形が見えてくることはなく、恒星のように点像にしか見えないので、しっかり確認するためには、時間を置いてから移動のようすを捉えたい。

